

雇用者数に減速感がみられた米雇用統計

ポイント① 米雇用者数は市場予想を下回る

4日に発表された7月の米雇用統計は、非農業部門就業者数が前月比18.7万人増と市場予想（同20.0万人増）を下回りました。医療などは増加したものの、製造業や輸送などは減少しました。また、5月と6月の雇用者数が下方修正されました。一方、失業率は3.5%と6月（3.6%）から改善、平均時給は前年同月比4.4%と市場予想（同4.2%）を上回り、強弱入り混じる結果となりましたが、雇用者数が市場予想を下回ったことで、雇用拡大ペースの減速が確認されました。

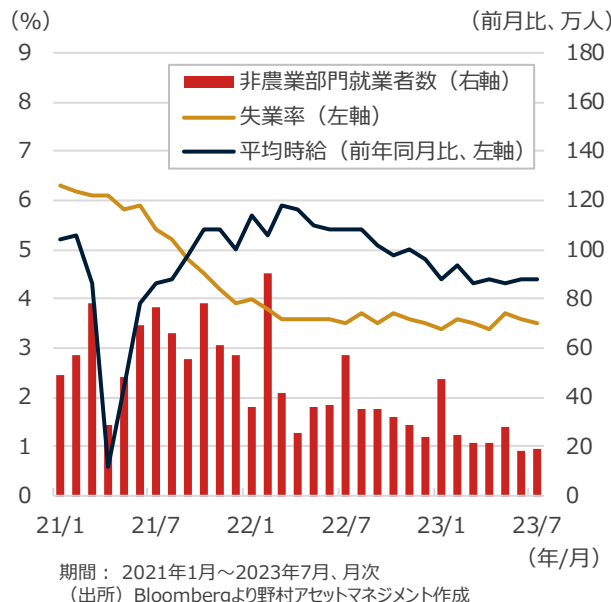
ポイント② 米景況感は製造業中心に減速

7月の米ISM景況感指数を見ると、非製造業は52.7と好不況の分かれ目の50を上回りましたが、活動の拡大ペースが減速しました。一方、製造業は46.4と、9ヵ月連続で50を下回り、製造活動の低調さが確認され、雇用指数が44.4へ大幅に低下しました。雇用統計でも製造業の雇用の減少が確認されており、製造業は雇用を抑えているようです。ただ、在庫指数は5ヵ月連続で目安の50を下回る水準にあります。企業の在庫調整が一巡すれば、製造業の雇用調整が深まる事態は避けられるものと見られます。

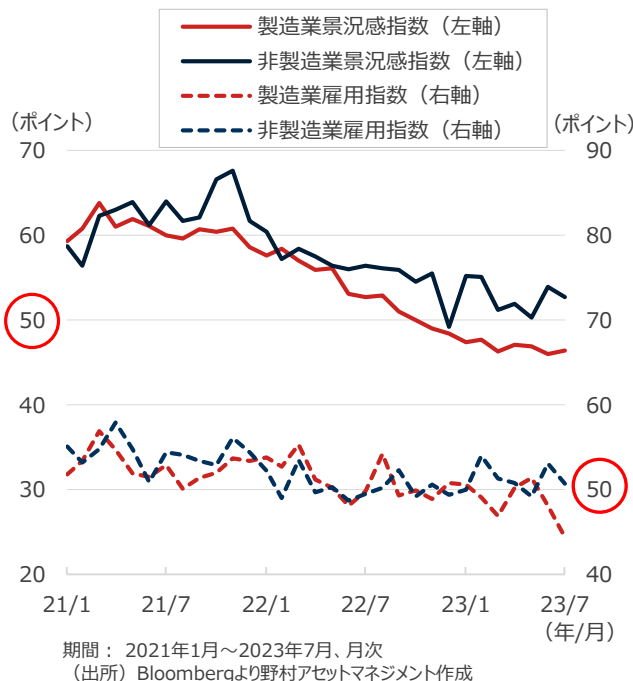
ポイント③ 統計発表後の市場の反応

4日の米10年国債利回りは、前日比0.14%低下（債券価格は上昇）、米ドル円相場は1米ドル141円台へ米ドル安となりました。雇用者数増加の減速を受け、FRB（米連邦準備制度理事会）による利上げ打ち止め観測が広がったようです。一方、米国株式は買い一巡後は失速し下落に転じました。

米非農業部門就業者数・失業率・平均時給の推移



米ISM (サプライマネジメント協会) 景況感指数と雇用指数の推移



重要イベント	8月10日	米消費者物価指数 (7月)
	8月11日	米ミシガン大学消費者信頼感指数 (8月)